



① IAPP 創設大会でみ言を語られる真のお母様 ② 記念のトロフィー受け取られる真のお母様 ③ 米上院議員会館で行われた IAPP 創設大会 ④ 祝賀会で挨拶をされる文善進家庭連合世界会長 (3日、ニューヨーク) ⑤ 祝賀会で手を取り合って歌う日本の責任者 ⑥ 祝賀会で花束を受け取られた真のお母様 ⑦ 祝勝会でお母様を中心に記念撮影する日本の訪米団 (4日、ニューヨーク・イーストガーデン)

# 地球規模の危機克服する平和の擁護者たれ

## ワシントンで「世界平和国会議員連合」創設大会

11月30日午後、米国の首都ワシントンの上院議員会館に真の父母様をお迎えして、北米大陸の「世界平和国会議員連合 (IAPP)」創設大会が開催され、多数の上下両院議員をはじめ、世界56カ国から駆け付けた現役国会議員70人など、各界の指導者約500人が参加しました。11月28日から12月1日にかけてワシントン市内で開催された「国際指導者会議 (ILC) 2016」(主催・UPF、ワシントン・タイムズ財団)の一環として行われたもので、参加者からはIAPPの創設とその趣旨に賛同する声が相次ぎました。

IAPPは、領土紛争や宗教紛争、民族対立、環境破壊、気候変動、貧困と飢餓、人類の生存を脅かす核拡散など、世界平和の実現を妨げ人類の発展にとって大きな脅威となる問題に対し、世界各国の国会議員が国際的ネットワークを築き、共同で対処していくことを目指しています。今年2月に韓国ソウルで開催されたILCで創設が決議され、7月にネパールでアジア太平洋圏の創設大会が開かれたのを皮切りに、アフリカ、欧州、中南米、日本などで相次いで支部が創設。そのフィナーレとして各大陸の代表

者をワシントンに集めて行われたのが、今回の大会です。

真のお母様は基調講演で、「人類の真の父母になることが神様の夢でした。ご自身の息子・娘として抱きたかった73億人類です。しかし創造の原則において、責任を果たすことの出来なかった人間の子孫である今日の人類たちは、神様の前に直接出て行くことができないのです」と強調。「聖書に偽りのオリーブの木と真のオリーブの木の比喻があります。偽りのオリーブの木である堕落した世界人類は、真の父母様によってのみ、真のオリーブの木になることができるのです。そのために今日、人類の前に絶対的に必要な方が真の父母なのです」と語られました。

その上で、お母様は「きょう集まったこの国の議員・指導者の皆様と、世界から来られた議員の皆様には重大な責任があります。皆様が重要なのです。新たな摂理時代において、神様は一人の責任者よりは、民を代表することのできる仲保者である皆様を必要とされています。ですから、真の父母様に侍り、皆さんの家庭において、社会、国家、世界において、

神様に侍る運動を展開して行かなければなりません」と訴えられました。

上院議長代行を務める共和党の重鎮オリン・ハッチ上院議員は、真のお母様に感謝の言葉を述べながら、「韓鶴子総裁は、私が尊敬するとても素晴らしい女性です。平和の擁護者であり、これからも持続的に影響を与えて下さる方であることを願っています」と挨拶しました。

世界中から集まった国会議員たちは、IAPP創設を祝賀して真の父母様に記念トロフィーを奉呈。心一つにして神様を中心とした人類一大家族の夢を実現することを決意しました。

それに先立つ11月29日、ワシントン市内にあるナショナル・シアターで韓国の少女民族舞踊団リトルエンジェルス芸術団が特別公演を行い、真のお母様が世界から集まった国会議員と共に鑑賞されました。「平和の使徒」たちは歌と踊りで平和を念願し、UPFとワシントン・タイムズ財団は地元の子供病院に2万ドルを寄付するとともに、今後も継続して支援を行っていくと表明しました。

ILC2016は、「私たちの時代における深刻な危機

の解決に向けて一政府、市民社会、信仰に基づく奉仕団体の役割」をテーマに、11月28日から4日間にわたってワシントン市内のホテルで開催。米国内外の国会議員や宗教指導者、政策専門家、NGO関係者など300人以上が参加し、信教の自由、結婚と家庭、環境保護、言論の自由と責任、テロリズム、外交政策などの各分野でパネルディスカッションを行いました。

### 真の父母様をお迎えして「真の家庭の価値運動授賞式」

12月1日から3日にかけて、ニューヨーク市内の会場で「分裂した国と世界を癒す信仰者たち」をテーマに「2016米国聖職者指導者会議 (ACLC) 総会」が開催されました。

3日には、真の父母様をお迎えして「第21回真の家庭の価値運動授賞式」が開かれ、「他の為に生きる神様中心の家庭」の理想を掲げ、社会に貢献してきた6組の個人や家庭、団体に賞が授与されました。(3面下に続く)

# 第2回「鮮鶴平和賞」受賞者を発表

## 「難民問題」をテーマにストラダ、ヤクービ両博士



①「鮮鶴平和賞」受賞者発表式で  
②ジーノ・ストラダ博士  
③サケナ・ヤクービ博士

ILC2016の関連行事として11月29日、第2回「鮮鶴平和賞」の受賞者発表式が行われ、「難民問題」に取り組んできたイタリア人医師ジーノ・ストラダ博士（68歳）とアフガニスタンの女性教育家サケナ・ヤクービ博士（66歳）の二人の受賞が発表されました。

ストラダ博士は、「医療を受ける権利」は基本的、かつ譲ることのできない人類普遍の人権であるという信念のもと、25年にわたり深刻な紛争に見舞われている中東及びアフリカ地域において緊急医療救護活動を展

開、700万人を超える人々の命を救ってきました。ヤクービ博士は、「少女たちを教育することは、未来世代を教育すること」であるという考えを持ち、女性教育が制限されていたアフガニスタンのタリバン政権下で、命を懸けて80余りの学校を運営し、3000人の少女たちを教育。また難民キャンプで教育を通じた難民再定着の解決策などを提示しています。

同賞の授賞式は2017年2月3日、ソウルで開催されます。

(2面から続く)

ワシントンでの行事を終えてニューヨークに駆け付けられたお母様は、参加者に対し、次のようにみ言を語られました。

「特に聖職者の皆さんは神様を正しく教えてあげなければなりません。神様を正しく教えるためには、蕩滅復帰摂理歴史を理解することが必要です。中心人物は救世主、メシヤ、真の父母なのです。

皆さんが皆さんの信者たちを教育するにあたり、皆さん自らが真の父母と一直線上で、絶対的に一つになった立場で教育しなければなりません。そして皆さんのような祝福を受けることができる立場に進むことが出来るようにしてあげなければなりません。

人類が願うことは、神様を父母として侍って暮らすことができる、自由、平和、統一の幸福な世界。そのような世界に暮らすためには、変わらなければなりません。変わるということは、蕩滅を脱しなければならぬとい

うことです。真の父母によって祝福を受けて生まれ変わらなければ、変わることができないのです。

(中略)

重要な時というのは、いつもあるものではありません。救世主、メシヤ、真の父母が地上にいる時にこそ、皆さんの実績が天の前に、人類の前に責任を果たした立場で尊敬されることができるのです。……幸福は分ければ分けるほど大きくなります。私一人の幸福ではなく、私たち皆が幸福で、73億人類が幸福になるその日のために、皆さんは熱心に責任を果たして下さい」

授賞式の後、総会参加者は最後のプログラムとして、ニューヨーク市中心部にあるマンハッタンセンターで行われた「真の父母様との祝賀会」に出席。全米から集まった食口をはじめ、日本や韓国からのゲストなど2000人を超えるメンバーと共に真のお母様のみ言を受け、これから進むべき方向性を再確認して出発して行きました。

# 天一国に向かう跳躍の120日路程!

## 「基元節4周年」までの特別路程の活動報告



①韓日指導者の出征式でみ言を語られる真のお母様  
②日本出征式でメッセージを語る宋龍天総会長  
③出征式に参加した日本の指導者



10月3日から7日かけて韓国で行われた「天地人真の父母様招請 日本指導者特別集会」では、6日に龍平リゾート(江原道平昌郡)に真の父母様をお迎えて「韓・日天一国指導者 和合統一 出征式」が行われ、同日夜には「日本天一国指導者出征式」が行われ、日本の指導者800人が決意新たに出発しました。

日本出征式で宋龍天<sup>ソロンテン</sup>・全国祝福家庭総連合会総会長は、「家庭連合の旗を高く掲げ、生きて働かれる神様と勝利された真の父母様を堂々と証し、120日特別路程を勝利の跳躍台にして、2020年に母の国の天一国の実体的な基盤を天の前に奉獻する、天一国の勝利に向けて総進軍しましょう!既に総進軍のラッパは鳴り、到着しなければならない目的地は決まり、進軍すべき方向性も提示しました」と強調。その上で、「きょうまで持っていたすべての習慣性と堕落性、不平不満と後悔する心はここに置いて、新しい気持ちで日本に向かって出発しましょう。日本に到着した瞬間から、常に祈りの気持ちで、天の父母様と真の父母様の目で自らの姿と担当している教会、そして基元節4周年までの目標と活動内容を確認し、真の父母様の耳で食口と疎通し、真の父母様の切迫した心情で一日一日を生きていきましょう。そして孝情の伝統を相続させてくださった真の父母様の前に真の孝子の基準を立てましょう!」と力強く呼び掛け、出征式を終えました。

日本に戻った指導者800人が各地で出征式を終え、120日特別路程における第1次特別40日路程において精誠を尽くしている中、真の父母様は8日間の日本特別精誠(10月22~29日)と日韓海底トンネル現場ご訪問(11月14日、佐賀・唐津)の2度にわたって日本を訪問してくださいました。

日本家庭連合は、「唐津の奇跡」と「国際指導者会議(ILC)2016」(東京)の大勝利で120日路程における第1次特別40日路程を勝利的に終え、現在は第2次特別40日路程(11月21日~12月30日)の真っ只中にあります。

VISION2020勝利に向けて弾みをつける120日特別路程は、10月12日に始まり来年2月の基元節4周年まで行われますが、日本の全食口は真の父母様の特別な関心のもと、日本・母の国の位相をより一層高めるため必勝を期して活動しています。

家庭連合本部も120日特別路程の勝利のため、各局間、あるいは現場との疎通と共有を密にしながら、取り組みを継続しています。

そこで今回は、二世圏2000人祝福勝利、休眠食口1万人再復帰、そして1200認定家庭教会の基盤造成の目標に向けて、先頭に立って歩んでいる伝道教育局と家庭教育局の活動内容をレポートします。(5・6面に掲載)



## 地域家庭集会の定着と教育システムの構築を推進

### 伝道教育局

宋龍天総会長は、『世界家庭』2016年7月号に掲載されたメッセージの中で、真の父母様の家庭連合宣布(1994年4月)を通して、個人救援の時代から家庭救援の時代に入り、夫婦、家庭を中心として創造本性を啓発し、完成の道を行く時代に入ったことを強調されました。そして、全体目的としての母の国の使命勝利と、個体目的である「家庭天一国」を同時に実現していくことを語られています。

そのような摂理的背景を踏まえ、本年は「地域家庭集会の定着と教育システムの構築」を伝道教育局の取り組みとして訴え、推進してきました。

家庭天一国はその家庭だけの努力でなされるものではありません。それぞれの地域の祝福家庭が天の氏族として心情共同体を形成し、祈りあい助け合う、愛があふれる関係を築かなければならないのです。そして各地域で長子権を復帰していくその輪の中に、知人・友人、親族を迎え入れていくことがその道筋となります。

さて、120日路程において、「二世圏祝福」、「休眠食口の再復帰」、「認定神氏族メシヤ家庭教会」が目標として掲げられています。

伝道の原則は、自己伝道、内部伝道(家庭伝道)、そして外部伝道です。どんなにたくさん新しい人を伝道しても、それ以上に去る人が多くては何にもなりません。容器に空いた“穴”を塞がない限り、いくらたくさん伝道しても基盤は拡大しないのです。これが「休眠食口の再復帰」の課題です。容器の大きさ、もしくは容器の数を増やさない限り、抱えられる人数には限界があります。これに対応するのが、「認定神氏族メシヤ家庭教会」の

推進です。

教会の敷居が高くなってしまった食口には、「愛されたい」「理解されたい」「恩恵を受けたい」「活躍する場所が欲しい」など様々な思いがあるでしょう。基元節4周年に向けて「四大聖物伝授」の聖酒式があることは本当に大きな恵みであり、チャンスです。

今回、『天一国定着に向けた祝福家庭の姿勢』という宋龍天総会長のメッセージをまとめた小冊子が準備されました。まず一人ひとりが内容をよく理解し、家庭連合時代の教会づくりに向かって全食口が賛同できるよう、家庭訪問をして手渡し、難しい場合は郵送していただきたいと思っています。

そして、地域家庭集会(礼拝)への参加を促しましょう。各教会ではクリスマスや新年の企画としてオープン礼拝や集会が実施されると思います。こうした集会への参加を呼び掛けてください。このような取り組みが天の願いである心情文化共同体に向かつての一步となることを確信してやみません。

1991年の還故郷の摂理以来、神氏族メシヤ活動に対して漠然と抱いてきたイメージがあります。それは「氏族メシヤ活動は公的なことを離れて自分のことだけをする」というものです。残念ながら過去の取り組みにおいては、それぞれの家庭だけの問題となっており、教会として十分な準備や支援ができていたとは言えないでしょう。神氏族メシヤ活動は、各地域において「心情文化共同体」を形成していくことと別問題として取り組んでも、大きな実りを得ることはできないでしょう。

まず、近隣の祝福家庭が団結し、天の氏族としてお互

いに抱えている問題、例えば二世問題、夫婦問題、親復帰などに協力して取り組むことが大切だと思います。その模範となり、リードをしていくのが「認定神氏族メシヤ家庭」です。地域家庭集会の定着と心情文化共同体の土台の上でこそ、多くの課題の解決にトータルに取り組むことが出来ます。

後半3年半の勝敗を占う120日特別精誠路程です。「二世圏祝福」、「休眠食口の再復帰」、「認定神氏族メシヤ家庭教会」の目標に取り組むことで、その突破点を見出しましょう。(伝道教育局長・矢野治佳)

## 二世圏祝福の取り組みを推進

### 家庭教育局

6月1日に「二世圏祝福推進委員会の結成」に関する公文を発信し、牧会者を中心とした「二世圏祝福推進委員会」を立ち上げ、2020年の祝福勝利に向けて出発しました。

来年2017年2月(基元節)に参加者2000人を目標していた祝福式が、同9月(聖和節)に延期されましたが、目標の2000人は「約婚者(本人交流も含む)」の人数として来年2月までに達成できるよう取り組んでいます。

なお、8月1日から全家庭を対象に「二世圏(20歳以上の祝福二世・信仰二世)一斉調査」をスタート。120日路程における第2次40日路程(第8次特別精誠路程)に合わせて、「第3次二世圏一斉調査」を行っています。

①徳野会長ご夫妻(中央)と特別公認家庭教会の認定を受けた先輩家庭(9月、松濤本部) ②第16地区で神氏族メシヤ家庭教会として認定された家庭(9月、神戸) ③韓日祝福候補者の実体交流に参加した韓日カップル(11月、千葉・浦安) ④宋総会長のメッセージをまとめた小冊子 ⑤信仰二世のためのマッチングウェブサイト

具体的には、次の3つのステップで取り組んでいます。第1ステップは、「D登録(伝道対象者登録)の推進」です。教会で連絡がとれる二世圏をD登録して実数把握を行い、調査対象の絞り込みを行います。

第2ステップは、「対象者調書の収集」です。「二世圏祝福対象者調書」を用いて、全家庭の子女を対象に祝福希望の有無などの情報を収集します。

第3ステップは、「祝福に向けた働きかけ」です。祝福希望者であれば、「マッチングサイトへの登録」を促していますが、候補者認定されているかいないかに関わらず登録することができます。

「信仰二世のためのマッチングサイト」も準備され、管理者の登録が始まりました。また、既婚者の場合は現場の「既成祝福式」につなげたり、恩赦が必要な場合は「天一国聖酒式」に導くように促します。恩赦の天一国聖酒式は、来年の基元節の前日(2017年2月8日)まで参加可能です。

このような取り組みの中、第2次40日路程(12月30日まで)で1000人、第3次40日路程(2017年2月8日まで)で2000人を目標としています。

一方、11月12日～13日に「第5回障害をもつ子女の祝福のための父母集会」(主催・天寶会)が行われ、全国から31家庭が参加し、5組の交流が決定しました。11月25日～27日には「第1次韓日祝福候補者実体交流(約婚誓約式・日本文化体験教育)」が行われ、今回は9組のカップルが約婚の誓いを行っています。

# 中高生が切磋琢磨して心情文化を発信

## 第20回全国中和文化祭を開催



①全国原理講義・スピーチ大会の出場者  
②東日本大会のエンターテイメント部門で優勝した宮城教区のパフォーマンス  
③西日本大会のエンターテイメント部門で優勝した佐賀教区のダンス



「良心革命を起こそう！成和学生」のスローガンのもと、10月から11月にかけて「第20回全国中和文化祭」が、青年学生局および全国の成和学生部が主催して行われました。中和文化祭では、中高生の成和学生を対象に、チャート原理講義、スピーチ、原理講義、エンターテイメントの公式4部門で、日頃の取り組みの成果を競い合います。

10月から11月初旬にかけて開催された各地区大会では、文化祭に学校の友人・知人を招待し、成和学生が何を学び、何を目標しているのかを伝える「心情文化の発信」を推進。成和学生の「紹介」や「歓迎」をテーマに、様々な企画が地区ごとに行われました。

成和学生の良心革命に向かう姿を分かり易く伝えるため、①神様の愛②理想家庭③為に生きる④良心⑤成和学生——の5つのテーマが設定され、地区ごとに上記の5つのテーマの中から一つを選択し、個性あふれる文化祭を創り上げました。

11月には全国大会として東日本・中日本・西日本大会が開催され、公式4部門における各地区代表が素晴らしい発表を行いました。

昨年まで東西の2カ所で開かれていた全国大会が、今年度は東・中・西日本の3カ所で開催。西日本大会として九州の地（佐賀県）で初めて全国大会が行われました。

真の家庭を代表して文妍様がお東日本大会（埼玉県）と中日本大会（奈良県）に来場され、良心革命に取り組

む成和学生の心情文化の集大成を見学されました。文妍様は閉会式におけるメッセージで、真のお母様が二世圏を愛される心情と、良心革命に向かう生活姿勢について語られ、日本の成和学生を激励されました。

また11月27日、東日本・中日本・西日本大会の個人部門（チャート原理講義・スピーチ・原理講義）の優勝者による決勝大会として、「第8回全国成和学生原理講義・スピーチ大会」が東京・渋谷の松濤本部で開催されました。（青年学生局 成和学生部）

### 大会結果

#### 団体部門：エンターテイメント

- 東日本大会 優勝：第2地区代表 宮城教区
- 中日本大会 優勝：第15地区代表 奈良教区
- 西日本大会 優勝：第12地区代表 佐賀教区

#### 個人部門：第8回全国成和学生原理講義・スピーチ大会結果

- 【チャート原理講義部門 優勝】  
中日本代表 第9地区 北大阪教区代表（中3女子）
- 【スピーチ部門 優勝】  
西日本代表 第11地区 島根教区代表（高2女子）
- 【原理講義部門 優勝】  
西日本代表 第10地区 徳島教区代表（高1女子）

# “良心革命は、天を中心に生きる努力の継続から”

## 文妍様が青年学生にメッセージ



11月15日、東京・渋谷の松濤本部に文妍様をお迎えし、「首都圏青年学生指導者特別集会」が開催され、青年・学生を指導する首都圏の公職者およそ180人が集いました。

集会では、中和文化祭「全国大会」や成和大学生圏出征式、CARP活動に関するレポートを共有したのち、妍様が特別メッセージを語られました。

文妍様は「良心革命」に焦点をあて、教育者にとって核心的なメッセージを語って下さいました。以下、その要点です。

「良心の主人は天の父母様です。従って、主人である天の父母様を中心とした生活抜きに良心の成長はありません。しかし、私達はその主人である天の父母様の事がよくわからずに生きています。その天の父母様の事情、心情、願いを、生涯を通して教えて下さったのが真の父母様です。真の父母様を通して私達は天の父母様を知ることができるのです。

私達の生活は『天の父母様』『真の父母様』が主語でなければなりません。私達が24時間その視点で生活できるなら、良心革命は必要ないのです。お父様は『私の人生は神様を抜いたら話すことは何もない!』と語られました。そういう生き方は絶対に神様中心です。

真のお母様にお側で侍っていると、常に天の父母様と真のお父様が傍におられることを感じます。それを抜きにしてお母様を語ることはできません。道端の美しい一輪の花を見ても、天の創造目的を考えていらっしゃるの



①首都圏青年学生指導者特別集会の参加者  
②メッセージを語られる文妍様

です。良心革命は概念的には難しいですが、生活の中で毎瞬間取り組めば、いつか文化圏をつくることができます。そのためには継続した努力が必要です。

私達にはしみついた習慣性があるので簡単ではありません。それだけに昨日よりは今日、今日よりは明日と、天の願いを中心に生きる努力が必要なのです。そうすれば、いつかは習慣が変わり、良心革命が起きるのです。

私たちは『自分』を完全になくすることは難しいです。でも誰かを先に考えれば良いのです。無くするのではなく、他に関心を向けることです。その関心を真の父母様に向ければ良いということになります。そうしたら自分を忘れることができます。

真の父母様と天が私達をこのように愛して下さいという跡を残して下さいことが偉大なのです。私たちは真の父母様の愛の伝達者とならなければなりません」

# “勝利して真の父母様をお迎えしよう！”

## 宋総会長を迎えて福井家庭教会の献堂式



①看板の除幕式後に記念撮影  
②説教を行う宋総会長  
③花束を受け取った宋総会長  
④福井家庭教会献堂式の参加者

前日から降り続いた雨も上がり快晴となった11月23日、宋龍天総会長を迎えて、福井教区福井家庭教会の献堂式が盛大に挙行政され、地元議員、有識者などの来賓も含め300人以上の人々が出席しました。

献堂式では、祝賀のテープカットに続き、教会看板の除幕式、聖別式が行われました。

記念礼拝では、福島ひと美教区婦人代表の代表報告祈禱に続き、祝福二世が祝歌「ユーレイズミーアップ」を熱唱。お母様が10月に立山を訪問された映像をバックに、透き通った歌声が礼拝堂に響きました。

続いて、野崎禎二教区長が献堂に至る経過を報告。食口の早朝聖地祈禱会を始めてから800日目献堂の日となったことを紹介しながら、食口たちの精誠の土台のうえに天の導きで新聖殿の献堂が実現したことを証しました。

地元議員の祝辞のあと、高松八寿夫第7地区長が「不

死鳥精神で蘇ってきた福井の地です。世界平和は幸せな家庭づくりから。家庭基盤を通して福井から平和を成し遂げていきましょう」と訴えました。

宋総会長は説教で、「天運が日本に到来したと真のお母様が言われました。お母様は、時が来れば日本の教会を訪問するとおっしゃっています。ぜひ福井家庭教会が勝利してお迎えしましょう」と激励しました。

続く祝賀午餐会では、青年のコーラス、二世が制作した献堂映像、アカペラのコーラスなどが披露され、フィナーレの「ムジョコン（無条件）」では、宋総会長と参加者が一体となって踊り、最高潮に盛り上がりました。

最後に宋総会長が、「唐津（トンネル現場）、ILC（国際指導者会議）に続いて、きょうは福井の奇跡を見ました。この3つの奇跡をお母様に報告します」と祝福。献堂の喜びが新聖殿全体に溢れる1日でした。

# 各地で「2017 天地人真の父母宇宙祝福式」

## 西東京教区は徳野会長ご夫妻を主礼として挙行政



①西東京教区の祝福式の参加者  
②メッセージを語る徳野会長  
③指輪交換を行う参加カップル

11月23日の祝日、東京都内のホテルで、徳野英治会長ご夫妻を主礼として「2017 天地人真の父母宇宙祝福式」が行われ、新規23組、夫復帰16組など合計40組のカップルが祝福式の恩恵に与り、全体で150人が参加しました。

今回の祝福式に向け、西東京教区では金紋爽教区長の揺るぎない決意のもと、7月から取り組みをスタート。各教会に祝福担当を立て、啓蒙と候補者選定を繰り返していきました。

祝福式1カ月前からは、毎日ネット会議を行い、情報や証しを出し合って疎通と共有を継続。特に杉並家庭教会では、教会長と祝福担当が情報交換を密に行いながら、一人ひとりの婦人メンバーの事情に深く入り、夫に拒絶されても諦めず、すぐに対策と方向性を見出していました。

取り組んだポイントは「いかに夫を変えるかではなく、いかに自分が変わるか」。状況打開が難しい場合には、担当が何度もメンバーを訪問してサポートを行い、各教会でも同様の取り組みを行いました。

祝福式では、徳野会長が「(祝福式を通して)皆様は天国行きのパスポートを手に入れましたが、天国のビザを取得するためには、これからの人生において文鮮明先

生が明らかにされた天法3カ条を守ること、即ち伴侶を心から愛し、人から憎まれず、公金問題を起こさないことが必要です」とのメッセージを贈りました。

代表家庭として平和大使のカップルが登壇し、聖水儀式と礼物(指輪)交換が行われた後、聖婚問答、祝禱、聖婚宣布と続き、祝福式は滞りなく終了しました。



そのほか、11月後半から12月初めにかけて、各地で祝福式が行われました。

11月20日	福岡・福岡家庭教会 群馬・高崎家庭教会	既成3組、独身2人 既成3組、霊肉2組
23日	鳥取・鳥取家庭教会	既成3組、独身4人
27日	茨城・土浦家庭教会	既成3組、霊肉2組
12月3日	第9地区(大阪)	既成11組、独身45人
4日	三重教区	既成5組、独身12人

## 李海玉夫人を招いて「韓日・日韓家庭集会」—千葉

11月26日、李海玉・全国祝福家庭総連合会総会長夫人を南千葉教区千葉西家庭教会にお迎えし、「第14地区韓日・日韓家庭集会」が開かれ、教会から足が遠のいていた再復帰メンバー9人を含む約70人が参加しました。

午前は、李海玉夫人がおよそ1時間半にわたって次のようなメッセージを語りました。

「私たちに天の父母様に似た創造本性があります。それを表すために信仰生活をするのですが、「行い」が伴わない信仰は死んだものと同じです。原理を知っているのに実践をしない。理想家庭を目指して祝福を受けたのに全くその姿勢が見られず、この世の夫婦の方がましというのであれば、これは死んだ信仰です」

「家庭連合時代において、私たちは幸せにならなければなりません。天の父母様の一番の願いとは、ご自分の子女が幸せになることです。そのために私たちは、見つめるべきところを見つめる必要がありま

す。天の父母様と真の父母様を見つめながら歩むときに初めて、私たちは真の平和を手に入れることができるのです」

午後からは和動会が行われ、李海玉夫人自らが踊りの先頭に立ち、全体の心が一つになる貴重な交流の場となりました。



## UNITE が6大都市で一斉デモ行進

国際勝共連合大学生遊説隊<sup>ユニタイト</sup>が12月4日、全国6大都市（東京、横浜、名古屋、大阪、金沢、福岡）でデモ行進を行いました。同日、7都市（札幌、新潟、高崎、さいたま、四日市、熊本、鹿児島）でも街頭演説を行い、全体で約800人の大学生・青年が参加しました。

米国の次期大統領にドナルド・トランプ氏が当選し、韓国が朴槿恵大統領のスキャンダルで混乱する中、UNITEは「日本とアジアの平和を守るため 日韓

米の連携を強化しよう!」というスローガンのもと、今回のデモ行進を実施しました。

東京・渋谷では、約170人の若者が宮下公園を出発、渋谷の街中を1時間かけて行進しながら、日韓米の連携強化や中国の脅威を訴えました。



東京・渋谷



さいたま・大宮

## 沖縄教区で「教育館」奉献式

11月27日、沖縄教区那覇家庭教会の教育館「孝情 Healing Center」の奉献式が行われ、約200人が参加しました。

玄関前でテープカットが行われた後、館内で記念式典を開催。聖別式、代表報告祈祷、感謝牌・感謝状の授与、祝辞などに続き、勅使河原秀行総合企画局副局長が「神のみ言を教育する素晴らしい施設ができました。どんどん伝道し、たくさんの人々を教育してください」と激励しました。

祝勝会では、乾杯とケーキカットで会場が盛り上がり、最後に祝歌や聖歌隊による歌と演奏で最高潮に達して閉会しました。

り、最後に祝歌や聖歌隊による歌と演奏で最高潮に達して閉会しました。



勅使河原秀行総合企画局副局長

## 茨城で「第12回ピースカップジュニア東日本大会」

11月26、27日の両日、茨城県内のグラウンドで「第12回ピースカップジュニア(PCJ)東日本大会」が行われ、選手や父母、大会運営者など約300人が集いました。

昨年に続いて今回も韓国・麗水<sup>ヨス</sup>から多文化プロジェクトの一環として編成された「麗水<sup>フルンバダ</sup>青海FC」が参戦し、14チームでの大会となりました。昨年からの国際親善の恩恵で、お互いが技術のレベルアップの意識が高まり、張り詰めた雰囲気の中で大会は進みま

した。初日のリーグ戦は晴天の中で開催され、2日目はトーナメント戦のほか、青年や大人のエキシビジョンマッチも行われ、スタッフ間での親善交流もなされました。

優勝決定戦は昨年と同様、韓日のチームがぶつかる見ごたえのある試合に。選手はもちろん、観客も白熱して歓声が随所に沸き起こる熱き戦いとなりました。



## 東京・荒川でファミリーボランティア

11月23日、東京都墨田区の荒川河川敷で「ファミリーボランティア」(主催・北東京平和大使協議会)が開催され、子供から年配者までの100人以上が清掃活動に汗を流しました。今回の取り組みは、過去10年間にわたって荒川河川敷での清掃活動を継続してきたYFWP北東京連合会の協力を得て実施されました。

今回清掃を行った付近は、関東大震災の際に多くの韓国人が虐殺された場所。そうした歴史を鑑み、清掃前にはこの地で犠牲になった人々の慰霊の献花を行い、荒川の歴史を学ぶ時間を持ちました。

清掃活動の結果は、日本全国のゴミ調査を取りまとめている環境NGOに報告され、世界のゴミ問題解決のために活用されます。

